

平成 30 年度 牧之原市菊川市学校組合教育委員会
自己点検・自己評価報告書



牧之原市菊川市学校組合教育委員会



あいさつ

社会の急激な変化とともに、教育を取り巻く課題は多様化の一途をたどっています。増加する外国人児童生徒等に対する指導体制の充実、子どもの貧困対策、教職員の多忙化解消に向けた学校における働き方改革など、教育の現場では様々な課題が山積しています。

牧之原市菊川市学校組合教育委員会は、これまで第2次牧之原市総合計画に基づいた諸施策を展開するとともに、牧之原市教育大綱において掲げた「こころざしを持ち 夢ある人づくり」に向けた5つの教育目標の達成を期して、様々な取組を行ってまいりました。

教育委員会には、教育行政の担い手としての役割を着実に果たすことが求められていることを踏まえ、昨年に引き続き今年も学識経験者の知見や知恵をお借りしながら、平成30年度に実施した施策・事業を対象に点検・評価を実施し、その結果を「平成30年度 牧之原市菊川市学校組合教育委員会 自己点検・自己評価報告書」として取りまとめました。

本報告書は、牧之原市第2次総合計画重点プロジェクト「宝子ども育成プロジェクト」における戦略プランの10事業と図書館管理運営事業、文化振興事業及び教育のあり方検討事業の3事業を加えた13の事業を対象として自己点検・評価を行った結果について、市が用いる総合計画の進捗状況を確認し評価するシートの形で掲載しています。

平成の時代が終わり、令和の時代を迎えた現在、牧之原市菊川市学校組合教育委員会といたしましては、より一層教育改革に取り組み、現場の声、市民目線を大切にしながら、新たな時代に対応した教育行政を目指して力を尽くしてまいります。

令和元年10月

牧之原市菊川市学校組合教育委員会

教育長 橋本 勝

目 次

1	自己点検・評価の趣旨	…	1
2	点検・評価の対象及び方法	…	2
3	宝子ども育成プロジェクト 戦略プランについて	…	3～4
4	牧之原市教育大綱	…	5～6
5	自己点検・評価シート	…	7～13
6	教育委員会活動等報告	…	14～16
7	総合評価	…	17～19
8	評価を受けて	…	20



1 自己点検・評価の趣旨

平成 19 年 6 月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、教育委員会は、毎年、教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図りながら、点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、市民に公表することが義務付けられました。

その目的は、教育行政の執行状況を検証して、効果的な教育行政の推進に生かすことと、市民の皆様への説明責任を果たすことにあります。

教育理念「こころざしを持ち 夢あるひとづくり」の実現に向けて、平成 30 年度に実施した事業の内部点検及び評価を行い、さらにそれについて、教育に関する学識経験者（以下「学識経験者」という。）から御意見をいただき、その結果を報告書にまとめました。

〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象及び方法

(1) 点検・評価の対象

ア 点検及び評価

牧之原市第2次総合計画重点プロジェクト「宝子ども育成プロジェクト」における戦略プランの10事業のうち、牧之原市菊川市学校組合教育委員会において実施している6事業を対象とします。

イ 報告

教育委員会の活動

(2) 評価対象期間

平成30年度

(3) 評価方法

教育委員会が「自己点検・評価シート」により、内部評価を実施するとともに、学識経験者の知見活用として静岡大学大学院教育学研究科講師島田桂吾氏に総合的な評価をいただきました。

自己点検・評価シートの様式は、市が総合計画等の進捗状況を確認、評価する際に使用している様式をできる限りそのまま使用し、市の評価と整合が図れるようにしています。



授業の様子（確かな学力推進事業・ICT活用推進事業）

3 宝子ども育成プロジェクト 戦略プランについて

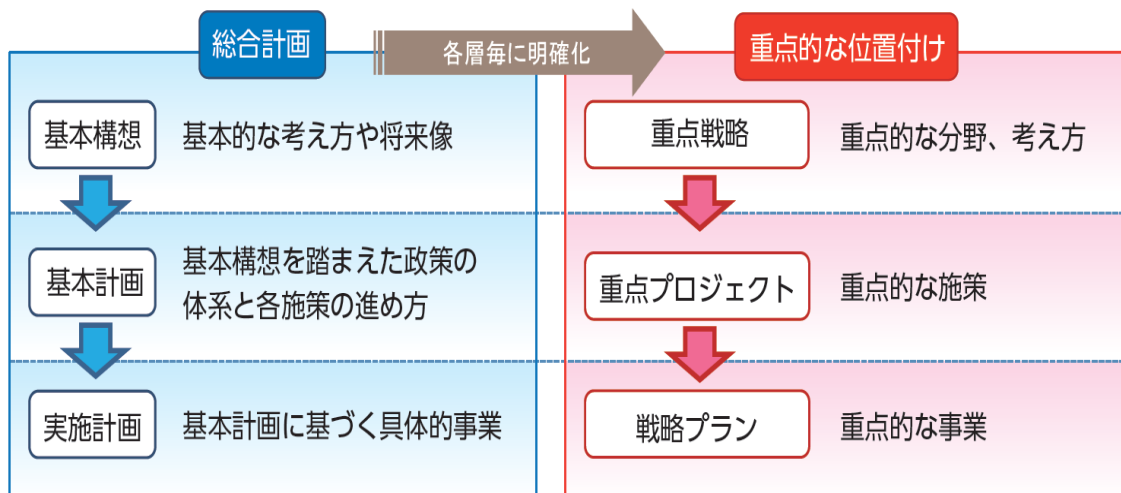
1 総合計画と重点プロジェクト

総合計画とは、市が総合的かつ計画的にまちづくりを進めるために策定するものです。目指す将来の牧之原市の姿に向け、市の総力を上げて取り組む計画です。

また、基本構想における重点戦略を価値判断基準として、重点的、横断的に取り組む施策群を重点プロジェクトと位置付け、積極的な事業展開をするとしたものです。

重点プロジェクトにおける事業を「戦略プラン」と呼んでいます。

計画体系のイメージ図



2 宝子ども育成プロジェクト 戦略プラン

総合計画には、5つの重点プロジェクトがあり、その中の1つ「宝子ども育成プロジェクト」に、教育委員会が関係する次の戦略プランがあります。これらの戦略プランについて、点検及び評価を行います。

(1) 確かな学力推進事業

児童生徒が「確かな学力」を育むため、指定研究校を設け、学校の創意工夫を生かした校内研修を進めるとともに、教育委員会の指導・助言の下で授業改善を推進する。

(2) 学習支援サポーター

学習内容における基礎基本を確実に習得するため、児童生徒の様々な特性に応じて学習活動の支援を行い、きめ細かな授業を実践。

(3) 児童放課後学習支援事業

学習内容の定着が十分でない児童に対して、基礎的な内容を身に付ける学習の場を提供するため、放課後の時間を活用し、学習支援や学習相談を実施する。

(4) 英語力向上サポート事業

児童生徒がこれからの国際社会に必要な資質やコミュニケーション能力を養うため、ALT（外国人英語指導助手）を配置して外国語活動を低学年から行なうとともに、長期休暇を利用したイングリッシュキャンプを企画実施する。生徒が英語検定を受験しやすい環境とするため、市の公共施設を会場にした英語検定試験も実施する。

(5) 理科支援員配置事業

理科授業をより効果的に進め、児童が理科への興味関心を高め、学力向上につなげる。理科支援員を3名配置し、実験準備など理科授業の環境整備を支援する。

(6) ICT活用推進事業

児童生徒の学習内容の定着を高めるため、さらに情報機器の活用力を身につけるために、校内 LAN 等の環境整備と電子黒板やタブレット等を活用した授業を実施するため、指定校を設け、実践研究を推進する。

牧之原市菊川市学校組合教育大綱

■基本理念 (目指す教育の根本となる考え方)

こころざしを持ち 夢ある人づくり

■教育の目標

- ◎気づき、考え、行動する人を育成します
- ◎学ぶ意欲を高め、確かな学力をつける教育を進めます
- ◎人を思いやり、人との対話を大切にする心を育成します
- ◎豊かさが実感できる教育を推進します
- ◎地域活動の充実を図ります

■教育の目標と基本方針

気づき、考え、行動する人を育成します

◆目標を達成する喜びと感動を育む教育の推進

目標を立て、努力して達成することにより、学びの喜びと感動を実感する教育を進めます。

◆健康な体と心を育成し、存在感と肯定感を持てる教育の推進

身体の健康の向上に努めるとともに心の健康も充実させ、自他を大切にする思いを育て、自分に自信を持てる教育を目指します。

◆自ら学び、考え、判断して行動する力を養う

ものごとの本質を見る目を養うとともに、自ら学び、自ら考え課題を解決する力をつけます。

学ぶ意欲を高め、確かな学力をつける教育を進めます

◆学びたいという意欲を育む教育の推進

幼児期から、体験活動を通して自ら進んで学びたいという気持ちと態度を育成します。

◆国際理解と英語(外国語)教育、理科教育の推進

国際化する社会をたくましく生きていくために、多様な考えを受け入れる力やコミュニケーション力をつける学習を進めるとともに、国語力の向上に努めます。また、科学への興味や関心を深め、ものづくりの基礎となる理科教育の充実を図ります。

◆情報機器(ICT)を活用し、楽しみながら積極的に学ぶ教育の推進

情報化が進む社会に対応し、情報の活用能力を高める教育を推進し、お互いを理解するためのツールとして情報機器の活用を進めます。

◆小中学校の適正配置と学ぶ環境の整備

児童数の減少や学校施設の老朽化に伴い、子どもたちが学びやすい環境を整えるため小中学校の規模と配置の適正化を図ります。

人を思いやり、人との対話を大切にすることを育成します

◆人との出会いやふれあいを大切に、お互いを認め尊重する

人とのふれあいを通して人の温かみや人を思いやる心を育み、互いの人格を認める心を育てます。

◆自立と共生の心を育み、生命を尊重する心を育む

自分を正しく見る目を養うとともに、家族や仲間を大切にすることを養い、いじめをなくし命の大切さと生きる喜びを育みます。

豊かさが実感できる教育を推進します

◆地域の自然を愛し、大切にすることを育む

豊かな自然の恩恵を通じて、郷土のよさを感じとり、住んでいるまちや人を愛する心を育てます。

◆本との出会いを大切にすることを充実

本を好きになり、本を大切にすることを養い、図書に携わる人の育成と支援活動を推進し、身近に読書が楽しめる環境を整えます。

◆文化芸術の振興とスポーツ活動の充実

心豊かで生きがいを持って暮らすため、文化芸術の振興と充実を図ります。スポーツに親しむ環境を整え、スポーツ活動を充実させることで心と体を育成します。

◆郷土の歴史や文化財を大切に、将来にわたって引き継ぐ

市内に数多く残る文化財、郷土の発展や人々のために尽くした鈴木梅太郎博士をはじめとする多くの偉人、これらの財産や功績を受け継ぎ、広く知らしめるとともに後世へ残していきます。

地域活動の充実を図ります

◆年代を超えた交流により、一人一人が主体となった地域づくりを目指す

子どもから高齢者まで地域に暮らす一人一人が役割を持ち、世代間の交流を図って地域活動を行うことで活力ある人づくり、地域づくりを目指します。

◆生きがいを持った豊かな暮らしを目指す地域の生涯学習活動の推進

コミュニティー活動やボランティア活動、グループ活動などの生涯学習活動を活発化させ、暮らしの中に生きがいと豊かさを育みます。



4 牧之原市菊川市学校組合教育委員会 自己点検・評価シート



牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

事業区分	戦略プラン “宝”子ども育成プロジェクト							
事業名	確かな学力推進事業	新規・既存・定期	継続	款	項	目	大	中
		整理番号	1	10	1	3	9	
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係					

1 事業の位置付け

事業期間	平成 20 年度	～	平成	
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	児童生徒が「確かな学力」を育むため、指定研究校を設け、学校の創意工夫を生かした校内研修を進めるとともに、教育委員会の指導・助言の下で授業改善を推進。		
国・県・民間事業者による類似事業	静岡県の学力向上指定研究事業	他市町の実施状況	焼津市、御前崎市、島田市、掛川市 吉田町は町内全校で実施

3 投入コスト(千円)

		H27	H28	H29	H30	4ヶ年合計
事業費		189	229	139	190	747
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他					0
一般財源		189	229	139	190	747
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	牧中、相中で研究校指定 研究発表会を実施 (約200人参加)	勝小、榛中を研究校指定 研究発表会を実施 (約200人参加)	萩小、牧小を研究校指定 校内研修・研究発表会を実施(年1回)	相小、地小を研究校指定 校内研修・研究発表会を実施(年1回)		

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容 ・H26年度～H31年度の6年間実施する。 ・年度ごとに市内小・中学校より2校を指定校とし、趣旨・目的の具現に向け、研究実践を重ねる。 ・研究の指定期間は1年とし、各校の実態に応じ創意工夫を生かした校内研修を進め、教育委員会の指導・助言のもと研究実践を行う。 ・研究指定校1校につき講師謝礼10万円とし、予算の範囲内で研究の一助となるよう活用する。						
	活動指標	単位	H26 目標値 実績値	H27 目標値 実績値	H28 目標値 実績値	H29 目標値 実績値	H30 目標値 実績値
	研究発表会参加人数	人	246 189	200 223	200 223	200 224	200 418
<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)							

目的	対象(だれを対象とした事業か) 児童生徒、教職員 意図(対象がどのような状態になるのか) 子どもたちに「確かな学力」を育むための校内研修を推進するため、子どもや地域の実態に応じ、各学校の創意工夫した実践を市教育委員会と連携・協力の下に行い、もって市内の学力向上に資する。						
	成果指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
	教員へのアンケート(指定研究推進事業が参考になったか)	%	80 97	85 94	85 99	90 98	90 98
授業がわかると思う児童・生徒の割合	%	- 84.9	85 87.0	85 88.3	90 86.4	90 87	
<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)							

基本計画(上位施策)の方向性										
政策	重点P	施策	1							
・子どもを産み育てやすい環境づくりのため、結婚、妊娠、出産、育児の切れ目ない支援と地域で子育てを支える仕組みをつくとともに、幼稚園、保育園、小中学校、と地域、家庭、企業、行政の縦横の連携によるオール牧之原体制で子どもの学力向上に取り組む。				基本計画の指標	単位	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
				授業がわかると思う児童・生徒の割合	%	- 84.9	85.0 87.0	85.0 88.3	90.0 86.4	90.0 87.2
				子どもを通わせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	- 42.2	50.0 47.3	55.0 47.3	60.0 47.8	62.2 46.9

担当課による点検・評価	児童生徒が学ぶ意欲を高め、授業に主体的に取り組むことで「確かな学力」を身に付けられるよう、指定校は適切な研究課題を設定、真摯に研究実践を積み上げ、授業改善に取り組んだ。また、指定校の取組を各校が共有し、市として統一のとれた全体計画及び研究推進体制を整えることができた。一方、リーフレットは、国語・算数(数学)の2教科の結果から、「牧之原の子どもの学力・学習の様子」を教職員、保護者にわかりやすくまとめることができた。平成30年度は、市教育委員会担当指導主事が分析を9月中にまとめ、例年よりも早い段階で学校の教職員や保護者へ牧之原市全体の結果と今後の対応について広報することができた。
-------------	---

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

事業区分	戦略プラン “宝”子ども育成プロジェクト							
事業名	学習支援サポーター設置事業	新規・既存・定期	継続	款	項	目	大	中
		整理番号	2	10	1	3	6	
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係					

1 事業の位置付け

事業期間	平成 17 年度	～	平成	
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	学習内容における基礎基本を確実に習得するため、児童生徒の様々な特性に応じて学習活動の支援を行い、きめ細かな授業を実践。		
国・県・民間事業者による類似事業	静岡県の非常勤講師配置事業	他市町の実施状況	藤枝市、島田市、焼津市、菊川市、御前崎市、吉田町

3 投入コスト(千円)

		H27	H28	H29	H30	4ヶ年合計
事業費		15,048	17,419	16,324	19,503	68,294
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
その他					0	
一般財源	15,048	17,419	16,324	19,503	68,294	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	サポーター15名を配置し、特性に応じた学習活動を支援	サポーター16名を配置し、特性に応じた学習活動を支援	サポーター16名を配置し、特性に応じた学習活動を支援	サポーター19名を配置し、特性に応じた学習活動を支援		

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容 ①小学校は、相良小、川崎小、細江小が2→3名配置。地頭方小が1→2名配置 ②中学校は、榛原中・相良中が2→3名配置。 ③今後学力向上のために研修会等で授業改善の内容も理解して、つまづきやすい学習内容の支援にもかかわる。 ④児童生徒数の減少が見込まれるが、特別に支援が必要な児童生徒が年々増加しており、増員が必要である。	活動指標	単位	H26	H27	H28	H29	H30
				目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		学習支援サポーターの配置人数()は中学校)	人	-	15(4)	16(4)	19(4)	19(4)
		学習支援サポーターの年間勤務時間	時間	-	15,375	16,400	19,475	21,525
				14,397	13,723	17,418	15,808	18,801
		<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)						
目的	対象(だれを対象とした事業か) 児童生徒 意図(対象がどのような状態になるのか) 学習支援サポーターが授業中に個に応じた指導を実施することで授業の理解度は確実に向上していくことと思われる。そこで、該当する学級の児童生徒へのアンケートを実施し、その評価が向上していくようにする。	成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		児童生徒へのアンケート(学習支援サポーターが入った授業の理解度)	%	-	80	85	90	95
				-	87	95	96	96
		<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)						
	基本計画(上位施策)の方向性 政策 重点P 施策 1 ・子どもを産み育てやすい環境づくりのため、結婚、妊娠、出産、育児の切れ目ない支援と地域で子育てを支える仕組みをつくるとともに、幼稚園、保育園、小中学校、と地域、家庭、企業、行政の縦横の連携によるオール牧之原体制で子どもの学力向上に取り組む。	基本計画の指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		授業がわかると思う児童・生徒の割合	%	-	85.0	85.0	90.0	90.0
				84.9	87.0	88.3	86.4	87.2
		子どもを通わせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	-	50.0	55.0	60.0	62.2
				42.2	47.3	47.3	47.8	46.9

担当課による点検・評価	平成30年度においても、発達障害の傾向がみられる児童生徒は、市内小中学校に約336人(10.3%)と年々増加している。このような児童生徒に対して、個に応じた指導をすることができたため、きめ細かな指導が可能となり基礎・基本の定着や子どもたちの確かな学力の育成を図ることができた。大規模校の小中学校には3名を配置し指導の充実を図った。特に低学年で学習習慣が定着していない子どもへの手厚い支援が実施できるようになり、学校現場からは多くの「ありがたい」という声が聞こえている。今後、他市町の例にならない、「特別支援学級における支援」「小学校低学年」「養護教諭」のように目的別に人を配置することを考えていきたい。 教員免許状保有を採用の条件としているが、講師登録の数が少ないため、配置する人材を早期から意図的に確保しないと配置が難しい状況にある。現在勤務している学習支援サポーターはできるだけ継続的勤務を促し、研修会の実施等を通して資質の向上を図る。そして、基礎基本の定着に留まらず、担当教職員と学力向上に向けてより積極的な関わりができるようにしていきたい。
-------------	---

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

事業区分	戦略プラン “宝”子ども育成プロジェクト							
事業名	児童放課後学習支援事業	新規・既存・定期	継続	款	項	目	大	中
		整理番号	3	10	1	3	7	
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係					

1 事業の位置付け

事業期間	平成 18 年度	～	平成	
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	学習内容の定着が十分でない児童に対して、基礎的な内容を身に付けさせる学習の場を提供するため、放課後の時間を活用し、学習支援や学習相談を実施。		
国・県・民間事業者による類似事業	静岡県学力向上推進事業	他市町の実施状況	吉田町がH26年度から実施(土曜学習)

3 投入コスト(千円)

		H27	H28	H29	H30	4ヶ年合計
事業費		1,358	1,384	1,408	1,325	5,475
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出	856	876	790	826	3,348
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他					0
一般財源	502	508	618	499	2,127	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	放課後を活用した学習支援、学習相談を実施(小中学生延べ6,343人が利用)	放課後を活用した学習支援、学習相談を実施(小中学校延べ6,930人利用)	放課後を活用した学習支援、学習相談を実施	放課後を活用した学習支援、学習相談を実施		

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容 市内の小中学校(10校)の教室において、教員や講師の経験者が指導者となり、小学校は1日1時間の週5日、中学校は1日1時間の週2日を基本とし、8月を除き毎月実施する。国語、算数(数学)を主として、基礎・基本の定着を主に指導する。	活動指標	単位	H26	H27	H28	H29	H30
				目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		参加児童生徒数(延べ数)	人	6,000	6,500	6,500	7,000	7,000
				6,487	6,212	6,104	5,879	5,330
		<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)						
目的	対象(だれを対象とした事業か) 希望する児童生徒 意図(対象がどのような状態になるのか) 放課後の時間を活用し、学習の定着が十分でない児童生徒に対して、学習支援や学習相談などを行い、基礎的な内容を身に付けるための学習の場を提供する。	成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		保護者アンケート(H27子どもを参加させての満足度→H28子どもの学習意欲向上度)	%	90	90	90	95	95
		児童アンケート(学習内容がわかるようになったと思う児童生徒の割合)	%		100	85	84	84
						80	85	90
						95	88	88
		<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)						
	基本計画(上位施策)の方向性 政策 重点P 施策 1 ・子どもを産み育てやすい環境づくりのため、結婚、妊娠、出産、育児の切れ目ない支援と地域で子育てを支える仕組みをつくとともに、幼稚園、保育園、小中学校、と地域、家庭、企業、行政の縦横の連携によるオール牧之原体制で子どもの学力向上に取り組む。	基本計画の指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		授業がわかると思う児童・生徒の割合	%	-	85.0	85.0	90.0	90.0
				84.9	87.0	88.3	86.4	87.2
		子どもを通わせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	-	50.0	55.0	60.0	62.2
				42.2	47.3	47.3	47.8	46.9

担当課による点検・評価	小学校では、毎日学年ごとに学習の定着が十分でない児童への少人数による個別指導を実施した。中学校では、若干参加生徒が減少したが、該当生徒の各教科の基礎的、基本的な学習の理解が進んだ。 放課後学習支援を受けた児童生徒のうち、小学生は93%、中学生は83%が、「わからないことがわかるようになった」とアンケートに答えていることから、成果を上げていることがわかる。 これらの効果により、本事業の保護者からの評価も高い。 ただし、勤務時間の少なさから、人材確保に困難さがある。
-------------	--

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

事業区分	戦略プラン “宝”子ども育成プロジェクト							
事業名	英語力向上サポート事業	新規・既存・定期	既存	款	項	目	大	中
		整理番号	4	10	1	3	4	
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係					

1 事業の位置付け

事業期間	平成 18 年度	～	平成	
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	児童生徒がこれからの国際社会に必要な資質やコミュニケーション能力を養うため、ALT(外国人英語指導助手)を配置して外国語活動を低学年から行なうとともに、長期休暇を利用したイングリッシュキャンプを企画実施。		
国・県・民間事業者による類似事業	なし	他市町の実施状況	吉田町、御前崎市、島田市、焼津市、菊川市、藤枝市、川根本町、掛川市

3 投入コスト(千円)

		H27	H28	H29	H30	4ヶ年合計
事業費		17,226	17,639	22,555	24,647	82,067
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他					0
一般財源		17,226	17,639	22,555	24,647	82,067
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	ALTを4名配置、小1～6の外国語活動の実施 イングリッシュキャンプの実施(約200名が参加)	ALTを4名配置、小1～6の外国語活動の実施 イングリッシュキャンプの実施 小学校教員を対象に外国語活動指導研修を実施 英検へのチャレンジ推奨	ALTを5名配置、小1～6の外国語活動の実施 イングリッシュキャンプの実施 小学校教員を対象に外国語活動指導研修を実施 英語能力判定テストの実施と英検へのチャレンジ推奨	ALTを4名配置、小1～6の外国語活動の実施 イングリッシュキャンプの実施 小学校教員を対象に外国語活動指導研修を実施 英語能力判定テストの実施と英検へのチャレンジ推奨		

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容 ①外国人英語指導助手を配置し、中学校では英語の授業において、正しい発音や会話能力の向上を図る。小学校では、外国語活動を通して英語に慣れ親しむとともに、外国の文化等について学ぶ。 ②小中学生を対象に英語を聞き話す機会を設けるイングリッシュキャンプを実施する。 ③小学校外国語活動指導法研修会を実施する。 ④市内で英語検定を受検できる機会を設け、チャレンジを推奨する。そのため、中学2年を対象に英語能力判定テストを実施する。 ⑤観光交流課ホストタウン事業との連携については、現在申請中でH29年度は不確定要素が多いため、実施は見合わせ、H30以降の検討事項とする。						
	活動指標	単位	H26	H27	H28	H29	H30
			目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
	ALTが入った、外国語・英語実施授業時間数	時間	2,287	2,700	2,700	2,700	2,700
	英語検定受験者数	人	2,100	2,543	2,643	3,210	3,542
			-	50	150	150	150
			-	54	136	165	130
<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)							

目的	対象(だれを対象とした事業か) 市内全小中学校の児童生徒 意図(対象がどのような状態になるのか) 外国人英語指導助手を通し、外国の文化や生活などを学び、これからの国際社会に対応して生きていくために必要な資質やコミュニケーション能力を養う。						
	成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		(児童生徒アンケート)英語でALTとよく話をする。	%	80	50	60	60
	(児童生徒アンケート)外国人と多少わからないがあっても英語で会話できる。	%	-	50	60	60	60
			56	67	60	60	60
<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)							

基本計画(上位施策)の方向性										
政策	重点P	施策	1							
・子どもを産み育てやすい環境づくりのため、結婚、妊娠、出産、育児の切れ目ない支援と地域で子育てを支える仕組みをつくるとともに、幼稚園、保育園、小中学校、と地域、家庭、企業、行政の縦横の連携によるオール牧之原体制で子どもの学力向上に取り組む。				基本計画の指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
						実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
				授業がわかると思う児童・生徒の割合	%	-	85.0	85.0	90.0	90.0
						84.9	87.0	88.3	86.4	87.2
				英語が好きという児童・生徒の割合	%	-	85.0	85.0	90.0	90.0
						83.0	86.6	87.1	88.7	88.6
				子どもを通わせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	-	50.0	55.0	60.0	62.2
						42.2	47.3	47.3	47.8	46.9

担当課による点検・評価	ALTは児童生徒、教職員とのコミュニケーションの機会が増えるなど効果的な役割を果たしており、更に増員し、コミュニケーションの機会を増やす。イングリッシュキャンプは、広い会場で小学生はスポーツフェスティバル、中学生はスキットづくりに意欲的に取り組んだ。小学校外国語活動指導力向上研修会は、メインティーチャーとして授業に取り組む姿勢がうかがえた。英語検定については3回実施し、多くの児童生徒が受験をした。また、昨年に引き続き中学校2年生で英語能力判定テストに取り組み、英語力の実態把握を行った。このように様々な事業を通して、市内の児童生徒が今後、更に意欲的に英語の学習に取り組めるきっかけとしたい。
-------------	---

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

事業区分	戦略プラン “宝”子ども育成プロジェクト							
事業名	理科支援員配置事業	新規・既存・定期	継続	款	項	目	大	中
		整理番号	5	10	1	3	10	
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係					

1 事業の位置付け

事業期間	平成 28 年度	～	平成 30 年度	
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	理科授業をより効果的に進め、児童が理科への興味関心を高め、学力向上につなげる。理科支援員を3名配置し、実験準備など理科授業の環境整備の支援。		
国・県・民間事業者による類似事業	理科観察実験支援事業	他市町の実施状況	

3 投入コスト(千円)

		H27	H28	H29	H30	4ヶ年合計
事業費		1,612	1,739	1,427	1,969	6,747
事業費の財源内訳	国庫	526	553	461	394	1,934
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他					0
一般財源	1,086	1,186	966	1,575	4,813	
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	理科支援員を3名配置	理科支援員を3名配置	理科支援員を3名配置	理科支援員を3名配置		

4 業績指標の設定

手段	主な活動内容		H26	H27	H28	H29	H30	
	理科支援員(嘱託職員)3名を任用し、実験準備などの理科授業の準備や片付け及び実験器具等理科室の環境整備を行い、理科授業を円滑に進める。	活動指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		児童数(小学校3年生から6年生まで)	人	1,212	1,568	1,554	1,558	1,524
			1,499	1,591	1,580	1,472	1,460	
	理科支援員活動時間数	時間	-	1,890	1,890	1,890	1,890	
				1,731	1,739	1,347	1,716	
<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)								

目的	対象(だれを対象とした事業か)		H26	H27	H28	H29	H30	
	小学校3年生から6年生まで 意図(対象がどのような状態になるのか) 理科授業をより効果的、円滑に進めるため、児童への指導及び教員補助を行うことで、児童が理科への興味・関心を高め、学力向上につながる。	成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		児童アンケート(理科授業の関心度、満足度)	%	70	70	80	80	90
				91	93	97.5	96	
	(児童アンケート)理科の授業の理解度	%	-		50	55	60	
				53	58.5	54		
<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)								

基本計画(上位施策)の方向性									
政策	重点P	施策	基本計画の指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
・子どもを産み育てやすい環境づくりのため、結婚、妊娠、出産、育児の切れ目ない支援と地域で子育てを支える仕組みをつくることと、幼稚園、保育園、小中学校、と地域、家庭、企業、行政の縦横の連携によるオール牧之原体制で子どもの学力向上に取り組む。			授業がわかると思う児童・生徒の割合	%	-	85.0	85.0	90.0	90.0
					84.9	87.0	88.3	86.4	87.2
			実験が楽しいと思う児童の割合	%	-	70.0	80.0	90.0	90.0
					61.0	92.0	92.9	95.8	95.8
		子どもを通わせたいと思う学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	-	50.0	55.0	60.0	62.2	
				42.2	47.3	47.3	47.8	46.9	

担当課による点検・評価	(1) 子どもたちに理科支援員が専門的な知識を伝えることで、理科に対する興味を喚起できた。また、専科でない教員でも、理科支援員がいることで、児童が主体となり積極的に取り組む理科授業を実施できた。 (2) 子どもたちのアンケートで、「理科支援の先生に教えてもらってわかるようになった」と答えた児童が97.5%であり、「理科支援の先生に教えてもらって理科の授業が楽しくなった」と答えた児童は95.8%非常に高い結果が得られた。理科支援の専門的なサポートによって本事業の目的である子どもたちを理科好きにさせている状況となっている。 (3) 大規模校へ1名と小規模校は隔年で1名の配置である。次年度からは4名の配置となり、全校配置が実施されるため、更に成果が上がる事が予想される。
-------------	--

牧之原市教育委員会自己点検・自己評価シート

事業区分	戦略プラン “宝”子ども育成プロジェクト							
事業名	ICT活用推進事業	新規・既存・定期	継続	款	項	目	大	中
		整理番号	6	10	2	1	2	3
担当課名	学校教育課	担当係名	指導係					

1 事業の位置付け

事業期間	平成 27 年度	～	平成	
2次総の位置付け	政策	教育文化	施策	学びの意欲を育む学校教育

2 事業の内容

事務事業の内容	児童生徒の学習内容の定着を高めるため、さらに情報機器の活用力を身につけるために、校内LAN等の環境整備と電子黒板やタブレット等を活用した授業を実施するため、指定校を設け、実践研究を推進。		
国・県・民間事業者による類似事業	他市町の実施状況	菊川市：50インチTVとPCを全教室に配置。H26年度に各教室にi-PADを配布。	

3 投入コスト(千円)

		H27	H28	H29	H30	4ヶ年合計
事業費		279	4,436	21,277	35,756	61,748
事業費の財源内訳	国庫					0
	県支出					0
	使用料					0
	手数料					0
	分担金・負担金					0
	諸収入					0
	市債					0
	その他					0
一般財源		279	4,436	21,277	35,756	61,748
年間の事業実施内容 ※「(別紙)内訳票」に詳細を記載し、併せて提出	ICT推進委員会を立ち上げ、先進地調査	電子黒板機能付きプロジェクター、書画カメラ等の導入各学校での実践研究	電子黒板機能付きプロジェクター、書画カメラ等の導入各学校内で研修会を実施教職員用タブレットPCを導入	小学校4年生から6年生の教室に電子黒板機能付きプロジェクター、書画カメラ等の導入各学校でICT機器を活用した授業の実施		

4 業績指標の設定

※平成29年度までの活動指標「ICT機器一式の配備数」は、「児童生徒用タブレット配備数」に変更

手段	主な活動内容 平成30年度までに、市内全教員が授業でICTを活用した実践ができるように環境整備を進める。以降平成34年度に向けて、児童生徒がICT機器を効果的に使い、自分の考えを説明したり、互いに比較したりする授業を全校で実施する。	活動指標	単位	H26	H27	H28	H29	H30
				目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		ICT機器一式の配備数	個	-	0	11	36	91
		児童生徒用タブレット配備数	個	-	0	11	36	77
		無線LAN、光回線整備	校	-	-	-	0	2
				-	-	-	0	2
		<活動指標の定義> 手段(主な活動内容)を取った(実施した)ことが確認できる指標(提供されたモノやサービスの量)						
目的	対象(だれを対象とした事業か) 市内小中学校の児童・生徒・教員 意図(対象がどのような状態になるのか) ICTを積極的に活用した授業実践を全校で展開する。	成果指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		ICTを活用した授業を実施できる教員の割合	%	-	70	75	80	90
				-	66	62	67	77
		<成果指標の定義> 目的(意図)の進捗・達成度合が確認できる指標(例:市民の満足度、資格取得者の人数 など)						
	基本計画(上位施策)の方向性 政策 重点P 施策 1 ・子どもを産み育てやすい環境づくりのため、結婚、妊娠、出産、育児の切れ目ない支援と地域で子育てを支える仕組みをつくることと、幼稚園、保育園、小中学校、と地域、家庭、企業、行政の縦横の連携によるオール牧之原体制で子どもの学力向上に取り組む。	基本計画の指標	単位	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
				実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		授業がわかると思う児童・生徒の割合	%	-	85.0	85.0	90.0	90.0
				84.9	87.0	88.3	86.4	87.2
		子どもを通わせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度	%	-	50.0	55.0	60.0	62.2
				42.2	47.3	47.3	47.8	46.9

担当課による点検・評価	【達成の状況】 ・ICTを用いることで、主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践が見られた。 ・研究員自らが「簡単にさりげなく使う」を意識したことでICT活用能力が高まった。 ・マキノハラボとの連携を開始し、小学校の授業の中で簡単なプログラミングを学ぶとともに体験させる基礎をつかった。 【改革の方向性・今後のあり方など】 ・ICT機器を活用方法について研究し、協働的な学習や探究的な学習に生かすことができるようにしていく必要がある。 ・各教科の学びに生かすことを想定したプログラミング教育について研究を進める必要がある。 ・積み上げた実践を共有する場として、センターサーバの活用を検討していく。
-------------	--

5 教育委員会活動等報告

1 教育委員会活動

(1) 教育委員会とは

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地
教行法」という。）の定めるところにより、学校その他教育機関の設置・管
理、その他の教育事務を執行することを職務権限とする行政委員会であり、
教育長及び4人の委員をもって組織される合議体の執行機関です。

(2) 教育委員会の構成

牧之原市菊川市学校組合教育委員会の構成は、次のとおりです。

ア 教育長

教育長は、牧之原市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育
行政に関し識見を有するもののうちから、市長が、市議会の同意を得て
任命します。教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会を代表
します。任期は3年で常勤です。

イ 委員

委員は、牧之原市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育・
学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が、市議会の同
意を得て任命します。任期は4年で非常勤です。

◎ 牧之原市菊川市学校組合教育委員会委員の紹介（平成31年3月現在）

役職名	氏名	任期
教育長	橋本勝	平成30年10月1日～令和3年9月30日
委員 (教育長職務代理者)	近江賢市	平成30年10月1日～令和4年9月30日
委員	鈴木達也	平成28年10月1日～令和2年9月30日
委員	道下茂子	平成29年10月1日～令和3年9月30日
委員	松浦啓二	令和元年10月1日～令和5年9月30日

(3) 教育委員会の活動

教育行政の基本的な施策の決定や諸問題の解決策の重要案件等処理するため、原則として、毎月1回開催する定例会と、必要に応じ緊急案件を処理するために開催する臨時会のほか、事務局との情報交換・事務報告・その他の打合せ等を行っています。

平成30年度 教育委員会開催状況

	開催日	時間	会場
1	4月16日(月)	16:00～	相良庁舎
2	6月29日(木)	14:00～	相良庁舎
3	7月23日(金)	18:00～	相良庁舎
4	2月14日(木)	9:10～	牧之原小学校
5	3月1日(金)	18:30～	相良庁舎
6	3月29日(金)	16:00～	相良庁舎

2 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会の職務権限は地教行法第21条に定められていますが、その職務権限に係るもののうち、以下のものについては、同法第25条により教育長に委任することができず、直接、教育委員会が行うこととされています。

- ① 学校教育又は社会教育に関する一般方針を定めること。
- ② 学校、公民館及び図書館の設置及び廃止を決定すること。
- ③ 1件300万円を超える教育財産の取得を申し出ること。
- ④ 県費負担教職員の懲戒及び県費負担教育職員たる校長の任免その他の進退について内申すること。
- ⑤ 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- ⑥ 前2号に定めるもののほか人事の一般方針を定め及び懲戒を行うこと。
- ⑦ 県費負担教職員以外の校長、公民館長及び図書館長の任免を行うこと。
- ⑧ 教育長及び教育委員会事務局、教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事を行うこと。
- ⑨ 学校、公民館及び図書館の敷地を選定すること。

- ⑩ 1件500万円以上の工事の計画を策定すること。
- ⑪ 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃を行うこと。
- ⑫ 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。
- ⑬ 社会教育委員、公民館運営審議会委員及び図書館協議会委員を委嘱すること。
- ⑭ 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- ⑮ 学齢児童、生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。
- ⑯ 教科書の採択及び教科書以外の教材の使用に関すること。
- ⑰ 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を行うこと。

平成30年度牧之原市菊川市学校組合教育委員会議案一覧

議案番号	会議月日	件名
1	30.4.16	牧之原市菊川市学校組合教育長職務代理者の選任について
2	30.4.16	牧之原市菊川市学校組合立小中学校の主任等の任命について
3	30.4.16	牧之原市菊川市学校組合立小中学校の学校評議員の委嘱について
4	30.4.16	平成29年度榛原地区教科用図書採択連絡協議会委員の選出について
5	30.6.29	平成30年度特別支援教育就学奨励費補助金対象児童生徒の支弁区分の決定について
6	30.7.23	平成31～32年度使用の小学校用「特別の教科道徳」の教科用図書の採択について
7	30.7.23	平成31年度使用の小学校用教科用図書の採択について
8	31.2.14	平成31年度牧之原市菊川市学校組合教育費当初予算(案)について
9	31.3.1	県費負担教職員人事の内申について
10	31.3.29	平成31年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について

牧之原市教育委員会自己点検・評価は、第2次牧之原市総合計画重点プロジェクト「宝子ども育成プロジェクト」における戦略プランの10事業と、図書館管理運営事業、文化振興事業及び教育のあり方検討事業の3事業を加えた13事業について行うこととされている。

評者は牧之原市教育委員会より提出された「自己点検・評価シート」の項目及び内部評価結果について、総合的な評価を行った。

(1) 確かな学力推進事業

研究指定校の研究発表会参加人数は昨年度までより大幅に増加しており、教職員の意識の高さが窺われる。及び参加した教員の満足度は目標値を超えており、機能していると思われる。「授業がわかると思う児童・生徒の割合」はやや上昇しているが、さらなる向上策に期待したい。

(2) 学校支援サポーター設置事業

学習支援サポーターが増員されたことで、年間勤務時間も昨年度より大幅に増加している。学校現場からもニーズが高いと思われるため、人材確保も含めてさらなる充実をはかっていたきたい。

(3) 児童放課後学習支援事業

児童生徒や保護者からも高い評価を受けているが、参加児童生徒数に減少傾向がみられる。時間や人員が限られている中で、ニーズがある児童生徒が確実に参加でき、より効果が高められるようさらなる充実をはかっていたきたい。

(4) 英語力向上サポート事業

ALTが入った、外国語・英語実施授業時間数が目標を大幅に上回ったことは良い傾向であろう。ただ、「英語でALTとよく話をする」と回答した割合が昨年から引き続き半分に満たない現状もあるため、さらなる改善を期待したい。

(5) 理科支援員配置事業

児童の理解授業の関心度及び満足度が96%と大変高い数値が示されており、「理科離れ」が問題視される昨今の状況においては大変良い環境であるといえる。次年度から全校配置が予定されているためさらなる充実を期待したい。

(6) ICT 活用推進事業

ICT 機器一式の配備数は目標を下回っているが、着実に導入数が増えていることが窺える。無線 LAN については整備が開始されたばかりではなるが、今後の教育活動を進める上では不可欠であるためさらなる充実をはかっていただきたい。

(7) 男子力・女子力アップスクール事業

国の地域少子化対策推進事業として実施していたものであるが、地域のニーズとあわなくなつたと思われる。次年度から本事業をとりやめることにしたこととは評価できる。

(8) 学校支援地域本部事業

次期学習指導要領のキーワードである「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、学校支援コーディネーターが果たす役割は大変大きい。ボランティア派遣活動日数が昨年度よりも上回ったが、よりよい効果を生み出すためにも学校教育と社会教育が連携しながら事業推進をはかることを期待したい。

(9) 子ども体験プログラム推進事業

変化が激しい社会を生き抜くためには、子どもの頃から多くの体験活動を経験することはとても重要なことである。子ども教室の参加者は目標値を上回っており大変良いと思われる。さらなる充実に期待したい。

(10) こどもがつくるまち事業

子どもたちが「まちづくりを担う 1 人の市民」と捉えることを目的としており、「キャリア教育」や「シチズンシップ教育」にもつながる事業であると思われる。本事業の成果を学校教育にも還元できる仕組みを検討するなど、さらなる改善に期待したい。

(11) 図書館管理運営事業

図書館本貸出冊数は昨年度より減少しているが、来館者数は昨年度より増加しているが、図書館の従来からのイメージである「本を借りるところ」から「情報や人が集まる空間」に変容しつつあるとも言える。図書館のあり方を改めて再定位する時期に来ているように思われる。

(12) 文化振興事業

牧之原市は様々な歴史や文化が根付いている土地柄である。市民はもちろんのこと、他市民への関心を高める工夫がなされることを期待したい。

(13) 教育のあり方検討事業

牧之原市の教育や学校設備のあり方を検討することはとても重要なことである。広く市民にも周知しながら、「子どもを通わせたいと思える学校づくりへの取組に対する市民満足度」が高まる工夫にも期待したい。

以上が、牧之原市教育委員会が実施している 13 事業を中心として、総合的な観点から点検した評価である。全体的に、どの事業も必要性が高く、一定程度の成果も示されており、今後も継続していくことが基本になるであろう。よりよい事業の推進のために、今後の課題として 2 点指摘したい。

1 点目は、目標値の位置づけである。いずれの事業も目標値が示され、年度によって目標値を柔軟に設定することは妥当であろう。ただ、ともすれば実績値にあわせて目標値を「下げた」という印象を抱かせる可能性もあるため、目標値を変更する場合は根拠等も付すと心証はよくなると思われる。

2 点目は、各課を超えた取組の推進である。市民満足度の指標となっている「子どもを通わせたいと思える学校づくりへの取組」や「子どもを産み育てやすい環境」を高めるためには、1つの事業だけで解決できるものではなく、複数の事業を総合化することで解決につながるものである。そのためにも各課が実施している事業の成果を共有しながら、各課を横断的に取り組む事業を検討することも必要であると思われる。

※ 総合評価は、牧之原市と牧之原市菊川市学校組合の評価を兼ねています。

10 評価を受けて

総合評価については、大きく2点のご指摘をいただきました。

1点目は、目標値の位置づけについてです。ご指摘をいただきました平成30年度は、前期基本計画4年間の最終年度となっているので、次回は新たな4年間の目標値を記入することになります。その際には、目標値の精査を十分に行い、適正な目標値を設定するとともに、変更した理由を分かりやすく示すことができるようにします。

2点目は、各課を超えた取組についてです。

昨年度も同様のご指摘を受け、教育のあり方検討については実効性を高めるために、教育委員会内の横断的な組織である内部検討委員会において検討を行いました。今後は、平成31年3月に策定された「牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針」の実現に向けて検討を進めていくため、教育文化部だけでなく、全庁体制で取り組んでいきます。



牧之原市菊川市学校組合教育委員会 自己点検・評価報告書（令和元年10月）

発行 牧之原市菊川市学校組合教育委員会
〒421-0592 静岡県牧之原市相良275番地
電話：(0548) 53-2642 / F A X : (0548) 53-2657
E-mail : kyoiku@city.makinohara.shizuoka.jp
ホームページ : <http://www.city.makinohara.shizuoka.jp>